令和４年度　岡山県立東岡山工業高等学校　学校評価書

岡山県立東岡山工業高等学校
校　長　　松 本　光 民

１　自己評価

Ⅰ　評価結果　（別紙参照）

Ⅱ　分析・改善方策

（１）豊かな人間性の育成について

・挨拶・正しい言葉遣い・礼儀作法が身について習慣化できた。校門での「挨拶運動」も復活し、学校自己評価アンケートでも、生徒、保護者、教員いずれも約９割が積極的に気持ちの良い挨拶ができている。

・今年度の SDG s に関する取り組みは、生徒へ向けた講演会などであった。ものづくり教育にも徐々に取り入れられてきている。生徒から発信できる取り組みをお願いしたい。

・規範意識や人権意識の向上について、人権教育講演会など様々な機会を通じて、粘り強く指導している。支援を必要としている生徒に対して連携協力が必要である。

（２）学習活動の充実について

・特別教室や各専門科棟へのアクセスポイントの設置と、オンライン配信設備のさらなる充実も行った。

・基礎学力向上に関しては新たな取り組みとして１年生で Classi を取り入れ、他学年でも月曜７限を活用して，学力向上に努めた。

（３）キャリア教育について

・２年生でインターンシップに半数以上参加し、報告会ができたほか、学年ごとの取組で進路意識を高めることができた。最終的に　３年：就職 71%進学 29%（実績)、２年：就職 68%進学 21%（希望)、１年：就職 68%進学 24%（希望）となっている。また、各専門科がオンライン等工夫を凝らし、外部講師による講演会を実施し、キャリアアップに繋げることができた。

（４）開かれた学校づくりについて

・コロナ禍により地域の方との連携は十分にできなかったが、県国際交流員や県内の高校ＡＬＴとの交流によるグローバルプロジェクトを通じて興味・関心を高めることができた。

・オープンスクールでは希望の多い科の人数枠を増やし、より多くの中学生が体験できるように工夫した。中学校２年生も対象としオープンスクールの充実を図った。

・ものづくり教室や出前授業など、地域に出かけて働きかける「TokoToko プロジェクト～東工地域学～」は、一部は中止となったが多くの所期の目標を達成することができた。

（５）校内組織の活性化と人材育成について

・業務の効率化に学校全体で取り組んだ。クロムブックを利用した ICT の利用も進み、会議ではペーパーレス化に取り組んだ。また、朝の欠席・遅刻連絡をオンラインに変更したことは大きな業務軽減となった。

・実習のＴＴや外部講師の活用も取り入れ、人材育成を進めることができた。

２　学校関係者評価委員名

・鶴海　元　（同窓会会長）　・井勝　久喜（吉備国際大学副学長）・長谷井　賢治（前 PTA 会長）
・谷田　実知子（PTA 副会長）　・吉澤　洋一（山陽電研株式会社常務取締役）

３　学校関係者評価

・ＳＤＧｓの取り組みを生徒にしていただきたい。学校全体は落ち着いている。
・授業を見学して、どの授業も生徒が楽しそうにしていた。先生も楽しそうに見えた。ものづくりに向けた積極的な取り組みや、熱い情熱を感じた。魅力を中学生に伝えてほしい。
・コロナ禍、新しい生活様式を踏まえ、様々な教育活動や就職指導など良く頑張ってくれた。
・放課後の資格補習のおかげで、多くの生徒が資格を取得している。今後もお願いしたい。
・ＯＪＴで科を越えて教員が繋がることは良いことなので、今後も続けてほしい。

４　来年度の重点目標（学校評価を踏まえた今後の方向性）

・ＳＤＧｓの取り組みについて、ものづくり教育に関連付けるように実践する。
・授業以外の学習時間の充実に向け、さらなる具体的な取り組み・工夫の実践を図る。
・ＰＢＬの充実に努め、生徒の自己肯定感・自己有用感の育成を図る。
・インターンシップを中心にキャリア教育の推進に努め、進路意識の高揚と進路実現を図る。
・ものづくりを通じて、地域創生に貢献できる人材の育成を図る。